



少子高齢化が進む集落で
住民が作り上げたのは、
地域を思い合う『絆』でした——。

特集 子どもは地域の宝

野方地区にある籠谷集落かごのたにを知っていますか？

籠谷は「かごたん」という通称で呼ばれ、周りを山に囲まれた谷間にある土地にも関わらず、標高は200mを

超え、町内一の湧水量を誇る水源地がある自然豊かな場所です。しかし、少子高齢化が進み人口は激減。現在は15世帯、27名が暮らし、子どもは村山さんご家族の百花さん、莉子さん、優芽さんの3名だけとなりました。

このような籠谷集落に今年の3月、公民館の横に立派なバス停が建ちました。これは大崎中学校へ通うスクールバスのバス停です。

建てたのは籠谷集落の住人たちが。3名の子どものため、集落総出で作りしました。

発起人となったのは、昨年の公民館長 前田勝寛さん。

前田さんは、女の子が一人、雨風もしのげない場所です。バスを待つなんて危ないし可哀そうと集落を一軒一軒訪ね、協力を呼びかけました。

「昔はこの籠谷も子どもが30人はおったたいば、今は3人。子どもがおらんちゅうのはやっぱりさびしい。子どもは地域の宝やっど」と話してくれた前田さん。

その言葉に共感し、集落の皆さんで約2週間かけて作り上げたバス停は、7月豪雨にもビクともせず、集落の憩いの場にもなっています。

バス停の脇には「絆」と彫られたお手製のボードも。「子供は地域の宝」と力強く刻まれ、籠谷集落の絆の強さが伺えます。



▲集まると話題が絶えず、自然と笑顔があふれる籠谷集落の皆さん

